

平成 23 年 5 月 30 日

## 売上高の変動理由について

### 1 売上高の変動理由を把握する意義

これまでのサービス産業動向調査の実査の経験上、売上高（収入額）の動向について、その要因を分析することは極めて難しく、売上高（収入額）の変動の要因を分析するための何らかの情報が必要となっている。なお、当調査の調査票で、月間売上高（収入額）に関しフリー記入欄を設けている（※）が、記入例は少なく、売上高（収入額）の動向の要因分析には、あまり役立っていない。

このような状況を踏まえ、今回の調査の見直しに伴い、売上高（収入額）の動向の要因分析に資することを目的として、上記フリー記入欄を拡充し、「売上高の変動理由」に係る調査事項を新設することとした。

これにより、売上高（収入額）の動向の要因分析が可能となり、売上高（収入額）の結果の精度向上やサービス産業の動向に関するより有用な情報を提供することが可能になると考える。

※このフリー記入欄については、現行の調査票上「前月に比べて、状況に著しい変動があった場合は、その状況を具体的に記入してください」としている。

### 2 売上高の変動理由を調査する場合の問題点

「売上高の変動理由」の把握方法としては、調査票の記入のしやすさや集計結果のわかりやすさに鑑みると、単価及び数量などの変動理由を選択肢にして、調査客体がそれらの選択肢からいくつかを選ぶ形が良いと考えられる。ただし、前月と当月を比較した場合の売上高の変化は季節変動要因の影響を受けやすいものであることを考えると、この場合の毎月の「売上高の変動理由」の結果は、売上高の季節変動要因を説明したものになる可能性が高いと思われる。また、記入者負担にも十分留意する必要がある。

### 3 実質的なサービス産業の動向の把握

「売上高の変動理由」を把握する目的として、季節変動要因を含まない実質的なサービス産業の動向を把握することに主眼を置くのであれば、必要な調査事項としては、前月からの「売上高の変動理由」ではなく、景況感とその景況判断の理由を把握するのが適当ではないかと考えることができる（景況感とその景況判断の理由を把握する調査は類例がある。）。

### 4 景況感とその景況判断の理由

以上を踏まえ、「売上高の変動理由」については、事業活動ごとの景況感とその景況判断の理由を選択肢から選ぶという方法を提案する（案A参照）。

なお、来月の売上高予測や景況を把握する案も考えられるが、当調査は月次調査であり、速報の公表時（調査月の翌々月末）には、情報が過去のものになるため、そのような案は採用できないと思われる。

以下、具体的な案として、案 A を含め以下の 4 案を提示する。

【案 A】景況感についての決定要因

【案 B】売上高の変動要因（※1）

【案 C】売上高の前年同月の変動要因（※2）

【案 D】景況感と単価・数量に係る事項を並列的に設定するもの（※3）

※1 「売上高の変動理由」を把握する案

※2 案 A 及び案 B の折衷案。季節変動要因は排除されると思われるが、一年前の売上高を比較対象とするため、案 A よりもわかりにくく誤記入がおきやすいというデメリットがあると思われる。

※3 案 A との違いは、単価・数量に係る事項が独立した調査事項となっており、景況感との関連性がない点

【案 A】景況感についての決定要因

事業の種類	売上高（収入額）	当該事業に係る貴社の景況（該当する項目に○を付けてください）		貴社の景況に関する決定要因（該当する2項目の番号を重要度の高い順に右欄（上・下の順で）に記入ください）		左の決定要因などについて具体的に記入してください
		左の事業に係る貴社の景況は、 1 前月より良い 2 前月より悪い 3 前月と変わらない	1または2に○を付けた場合は右欄を記入してください	1 貴社のサービスの需要の動向 2 貴社のサービスの価格の動向 3 コストの動向	4 資金繰り・資金調達の動向 5 その他（ ）	
1	〇〇業 円	左の事業に係る貴社の景況は、 1 前月より良い 2 前月より悪い 3 前月と変わらない	1または2に○を付けた場合は右欄を記入してください	1 貴社のサービスの需要の動向 2 貴社のサービスの価格の動向 3 コストの動向	4 資金繰り・資金調達の動向 5 その他（ ）	
2	××業 円	左の事業に係る貴社の景況は、 1 前月より良い 2 前月より悪い 3 前月と変わらない	1または2に○を付けた場合は右欄を記入してください	1 貴社のサービスの需要の動向 2 貴社のサービスの価格の動向 3 コストの動向	4 資金繰り・資金調達の動向 5 その他（ ）	
3	△△業 円	左の事業に係る貴社の景況は、 1 前月より良い 2 前月より悪い 3 前月と変わらない	1または2に○を付けた場合は右欄を記入してください	1 貴社のサービスの需要の動向 2 貴社のサービスの価格の動向 3 コストの動向	4 資金繰り・資金調達の動向 5 その他（ ）	
4	□□業 円	左の事業に係る貴社の景況は、 1 前月より良い 2 前月より悪い 3 前月と変わらない	1または2に○を付けた場合は右欄を記入してください	1 貴社のサービスの需要の動向 2 貴社のサービスの価格の動向 3 コストの動向	4 資金繰り・資金調達の動向 5 その他（ ）	
5	その他 円			—		
	合計 円			—		

<メリット>

- 1 売上高の変動理由を把握する場合と異なり、季節変動要因が判断に入りやすく、実質的なサービス業の動向を把握することが可能
- 2 当調査事項についての集計結果は端的に景況感を表すという点で非常にわかりやすく、売上高の動向と合わせ、サービス業の月次の動向を把握することに資することを想定
- 3 景況感の調査は、他の調査に類例があり、わかりやすく理解が得られやすい。

<デメリット>

- 1 当調査事項の目的が売上高の季節変動要因を把握することに主眼が置かれている場合は問題
- 2 売上高調査の域を出ているのではないかとの批判の可能性

【案B】売上高の変動要因

事業の種類	売上高（収入額）	売上高（収入額）変動の有無 (該当する項目に○を付けてください)		前月と比べ売上高が増減した理由（該当する2項目の番号を重要度の高い順に右欄（上・下の順で）に記入ください）		〔増加・減少/上昇・下落/多い・少ない・拡大/縮小〕の具体的状況・理由を下記に記入してください
		売上高（収入額）は、 1 前月より上がった 2 前月より下がった 3 変わらなかった	1 または 2 に○を付け た場合は右 欄を記入し てください	1 客数（医療業などの場合は患者数など）の増減 2 貴社のサービスの価格の上昇・下落 3 営業日数が多い・少ない 4 担当事業部の拡大・縮小など 5 その他（ ）		
1	〇〇業	円		→ 3	1 客数（医療業などの場合は患者数など）の増減 2 貴社のサービスの価格の上昇・下落 3 営業日数が多い・少ない 4 担当事業部の拡大・縮小など 5 その他（ ）	
2	××業	円		→ 3	1 客数（医療業などの場合は患者数など）の増減 2 貴社のサービスの価格の上昇・下落 3 営業日数が多い・少ない 4 担当事業部の拡大・縮小など 5 その他（ ）	
3	△△業	円		→ 3	1 客数（医療業などの場合は患者数など）の増減 2 貴社のサービスの価格の上昇・下落 3 営業日数が多い・少ない 4 担当事業部の拡大・縮小など 5 その他（ ）	
4	□□業	円		→ 3	1 客数（医療業などの場合は患者数など）の増減 2 貴社のサービスの価格の上昇・下落 3 営業日数が多い・少ない 4 担当事業部の拡大・縮小など 5 その他（ ）	
5	その他	円			—	
	合計	円			—	

<メリット>  
 1 当調査事項の目的が、売上高の季節変動要因等を把握することに主眼が置かれている場合は目的に合致  
 2 売上高調査の一貫であると位置づけることが容易

<デメリット>  
 1 毎月の売上高の変動理由の結果は、売上高の季節変動要因を説明したものになる可能性が高く、実質的なサービス業の動向を把握することが困難  
 2 当調査事項について集計結果を出しても実質的なサービス業の動向という意味からは意味のある結果が出せない→季節変動要因の確認的な意義しかもたない

【案C】売上高の前年同月の変動要因

事業の種類	売上高（収入額）	昨年と同じ月と比べた売上高（収入額）変動の有無 (該当する項目に○を付けてください)		昨年と同じ月と比べ売上高が増減した理由(該当する2項目の番号を重要度の高い順に右欄(上・下の順で)に記入ください)		〔増加・減少/上昇・下落/多い・少ない〕の具体的状況・理由を下記に記入してください
		1 上がった	2 下がった	1 客数(医療業などの場合は患者数など)の増減	2 貴社のサービスの価格の上昇・下落	
1	〇〇業	円	1 または 2 に○を付けた場合は右欄を記入してください	3 営業日数が多い・少ない	4 その他 ( )	
2	××業	円	1 または 2 に○を付けた場合は右欄を記入してください	3 営業日数が多い・少ない	4 その他 ( )	
3	△△業	円	1 または 2 に○を付けた場合は右欄を記入してください	3 営業日数が多い・少ない	4 その他 ( )	
4	□□業	円	1 または 2 に○を付けた場合は右欄を記入してください	3 営業日数が多い・少ない	4 その他 ( )	
5	その他	円		—		
	合計	円		—		

<メリット>

- 単に前月の売上高の変動理由をきいた場合と異なり、季節変動要因等が判断に入りやすく、実質的なサービス業の動向を把握することが可能
- 当調査事項についての集計結果は、売上高の動向と合わせ、サービス業の月次の動向を把握することに資することを想定
- 売上高調査の一貫であると位置づけることが容易

<デメリット>

- 当調査事項の目的が売上高の季節変動要因等を把握することに主眼が置かれている場合は問題
- 前年と同じ月の状況をきくことは、前月や前期についてきくよりもわかりにくく、誤記入を招きやすい。売上高の変動理由についてはあまり類例がないと思われる。

【案D】景況感と単価・数量に係る事項を並列的に設定するもの

	事業の種類	売上高（収入額）	前月に比べて、状況に著しい変動があった場合は、その状況を具体的に記入してください	左の事業について、下記項目の状況を、1～3のうちから、それぞれ1つ選び、その番号に○を付けてください。		
				貴社の景況	貴社のサービスの価格	貴社のサービスの需要
1	〇〇業	円		1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い	1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い	1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い
2	××業	円		1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い	1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い	1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い
3	△△業	円		1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い	1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い	1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い
4	□□業	円		1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い	1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い	1. 前月より良い 2. 前月と変わらない 3. 前月より悪い
5	その他	円		—	—	—
	合計	円		—	—	—

<メリット>

- 1 売上高の変動理由を把握する場合と異なり、季節変動要因が判断に入りやすく、実質的なサービス業の動向を把握することが可能
- 2 当調査事項についての集計結果は端的に景況感を表すという点で非常にわかりやすく、売上高の動向と合わせ、サービス業の月次の動向を把握することに資することを想定
- 3 景況感の調査は、他の調査に類例があり、わかりやすく理解が得られやすい。景況と価格及び需要を切り離す方が、記入者は答えやすい。

<デメリット>

- 1 当調査事項の目的が売上高の季節変動要因を把握することに主眼が置かれている場合は問題
- 2 売上高調査の域を出ているのではないかとの批判の可能性
- 3 景況と価格・需要を切り離れた形になるため、景況感の判断と価格・需要の動きとの関連性の説明はしにくい